



好学愛知  
自律敬愛  
質実剛健

# 鶴丸イ言

## ベクトル

三学主任 大倉 一也

流暢で、歯に衣着せぬ語り口から人気だった元タレントの上岡龍太郎さん。人気絶頂の二〇〇〇年、58歳で芸能界を引退したので、高校生は知らない人が多いだろう(二〇二三年没)。私は特にファンという訳でもなかったが、生前に弟子のぜんじろうさんに語ったという言葉が何となく自分に刺さったので紹介したい。高校生は「お酒を飲む」件を、「カラオケに行く」などに変換して読んでみて欲しい。

『つらいときは飲みなさんなよ。お酒を飲んだから楽しいんじゃないよ。楽しいからお酒を飲みなさい。人生もそうです。成功したから楽しいんじゃないよ。楽しいから生きなさい。芸人もそうです。レギュラーが増えたとか、笑いが取れたから楽しいんじゃないよ。楽しいからこの世界でやりなさい』

人は何かに取り組むとき一生涯懸命にならなければならない理由、つまり行動原理が見えなくなることが多い。はじめは合間で楽しむと始めたゲームが、いつの間にかゲームに時間を合わせ、義務感でプレイするようになるのもその一例だ。行動と目的が入れ替わってしまうのだ。

君達は勉強に多くの労力を割いている。では何のために勉強をしているのだろうか。良い点数を取るためだろうか、順位上げや大学に受かるためだろうか。それは大切な目標であることに間違いはない。でもそれが本質だつたらどうか。学問の本質はおそらく人類のみに与えられた知的欲求への挑戦だ。どうしてこうなるんだらう、どうなっているんだらう、その追究は楽しい。しかし知ることに喜びを忘れたとき、勉強は苦行になる。部

活動はどうだろう。その競技が好きで、プレイしたくて始めたのに、部活動が休みになると喜びが少なくなっていくのは不思議だ。楽しいことにも苦しみは付き物だ。奥深いものほど突き詰める先に高い壁が待っている。そんなことは始める前から分かっているのに、いざ困難に向き合うと逃げ出してしま

う人は実に多い。上岡さんは苦しい時こそ、大切なことを見失う前に原点に返れと言っているのではないか。それは簡単なことではないが、そう心掛ける訓練をせよ、と言っているように私には聞こえる。

さて3年生、君達は今、何に向かって努力しているのだろうか。単に合格する為だけではないはずだ。今は合格できるかどうかで頭がいっぱいかもしれないが、もう一度夏の三者面談で担任や保護者へ語った言葉を思い出して欲しい。合格の先にある、大学での深淵なる学問の追究、輝かしい将来の職業とその責務、それが君達の行動原理だったはずだ。入学試験はその通過点に過ぎず、その先の自分の姿を夢見てこの3年間努力してきた。さあ、出発だ。失敗を恐れることなく堂々と戦って欲しい。失敗なんて君達の志に比べたら小さいものだ。大学の先生方が用意した最高の問題が君達を待っている、それを楽しまう。75回生の集大成の姿に期待しています。

## 共通テスト激励会

大学入試共通テストまで残り20日余りとなった12月22日、全校生徒が体育館に集まり、共通テスト激励会がありました。1、2年生応援団が主導し、1、2年生全員で、3年生に激励のエールを送った後、2年生応援団長の藤本道三郎君が、激励の言葉を述べました。これに応える形で、3年生応援団長の迫田莉子さんが、「クラスメイトと学びあい、励ま

し合ってきました。(中略)最後まで頑張ります」と、お礼と決意を述べました。



## 集団読書

11月13日、今年度2回目の集団読書(1、2年生)が行われました。これは、指定図書(今回は小川洋子氏の『博士の愛した数式』)を読んだ後、HR運営委員の司会により、学級内で感想を述べ合うなど、一緒に読書を楽しむもので、鶴丸の特色ある行事の一つです。ここで、25R小江優花さんの感想を紹介いたします。

この小説の題名は『博士の愛した数式』。愛したなどと、過去形が使われているから私はこの題名を見たとき、博士の身に何か良くないことが起こると思った。読んでいくと、なんと、この博士は「記憶が80分しか持たない」と言う複雑な設定を抱えている。博士は途中で亡くなってしまおうのではないかと、不吉なことを考えながら読むことになった。結論から書くと、博士が亡くなる前までの物語だったので、なんとか最後まで読み終えることができた。博士のご冥福をお祈りしたい。

さて、この物語の山場と言ってもいい場面について考えてみた。主人公の「私」(家政婦として博士を世話する女性)と未亡人(博士の義姉)が口論を繰り広げ、その最中に博士が「オイラーの公式」を書いて出て行くというシーンだ。美しいと有名なオイラーの公式を書くだけで喧嘩が収まるというありがた

い情報を教えてくれた場面だが、博士がこの公式に込めた思いとは何だろうか。eの「π」(パイ)とiの「積」の累乗に1を足すと零になるというこの公式(左図)の証明は置いておき、足される数はおそらく博士と「私」と「ルート」(「私」の小学生の息子)のことを、足す数は未亡人、そして和は全てが丸く収まることを表しているのではないかと私はそう考えた。読者である私たちの目には、未亡人が理解のない人のように映ってしまう。しかし、博士は自分の義姉(未亡人)のことも大切に思い、義姉に対する読者の見方を変えてくれた心に残るシーンであろう。

この公式の証明を調べてみると、気になることが出てきた。足される数の指数部に注目してほしい。様々な文献では、i×πの順番で書かれているが、この小説ではπ×iの順番で書かれている。掛け算なので、前後を入れ替えても問題ないが、なぜ入れ替えたのだろうか。作者の意図が分からないので、ここで博士が言っていたことを実践してみた。「声に出して読んでみる」ということで、足される数を音読すると、「iのπのあいじょう」となった。博士はいつも「iのπの愛情」を子ども(ルート君)に注ぎ続けてきた。そのことを象徴する公式なのだ。

## 「学習の軌跡」より

「弁論大会の予選会があった。どの人の作品もすばらしく、とても興味深かった。」「(土日に)進研模試がありました。日曜日は、帰ったらとても疲れて昼寝をしました。」「部活の後輩が雪を見るのが初めてと言っていた。人

$$e^{\pi i} + 1 = 0$$

## 生徒にインタビュー

「鶴丸スタンプ」って聞いたことありました? 「はい。私は持っています。使っています。」「(20A教室前の掲示板)見て、『えっ』と思いました。知らない人もたぶん沢山いると思います。」「このスタンプの作者の方のこと知っていました?」「知っている作品がありました。」「ドラママ化されて、知っていました。だからびっくりして。作者が先輩だったというのが。」「鶴丸生の中で、少しふざけあう時にこのスタンプ使えるので、いいなって。」

月	日	曜	行事等	校時	時間割変更等	学食
2	22	木	週番引継会	45分		○
2	23	金	天皇誕生日			×
2	24	土				×
2	25	日	国立大学前期日程試験(2/25~)			×
2	26	月				○
2	27	火	中掃除 SC乗校(児玉先生 13:30~17:30)		午後10分遅	○
2	28	水				○
2	29	木	卒業式予行 同窓会入会式 表彰式 卒業式会場設営(2限目13:14R 3限目11:12R) 週番引継会			○
3	1	金	第75回卒業式(1年生 12:00以降登校可)			×
3	2	土				×
3	3	日				×
3	4	月				○
3	5	火	一般入学者選抜(1日目) 自宅学習			×
3	6	水	一般入学者選抜(2日目) 自宅学習			×
3	7	木	自宅学習			×
3	8	金	自宅学習			×
3	9	土				×
3	10	日				×
3	11	月	自宅学習			×
3	12	火	自宅学習			×
3	13	水	学校安全の日 合格発表		水曜授業	○
3	14	木	合格発表会		水曜授業	○
3	15	金	週番引継会	45分		○
3	16	土	スタディーサポート(1年) 徳学講座(2年)			×
3	17	日				×
3	18	月	表彰式・社行会 SC乗校(児玉先生 13:30~17:30)	5分遅		○
3	19	火		40分		○
3	20	水	春分の日			×
3	21	木				○
3	22	金	合格体験を聞く会(7限)		水曜授業	○
3	23	土				×
3	24	日				×
3	25	月	終業式 大掃除 2・3年実力検査時間割発表			×
3	26	火				×
3	27	水	離任式(9:30までに体育館集合)			×
3	28	木				×
3	29	金				×
3	30	土				×

↑発行時の予定です。変更にご注意ください。